

熊本地震

電子業界の状況

ソニーのイメージセンサーおよびディスプレイデバイスの基幹工場であるソニーセミコンダクタマニユファクチャリング熊本テクノロジータワー（熊本県菊陽町）は、

復旧までにはお時間を要する見通し。建屋は高層階を中心に損傷が確認されたため、補強工事を実施する。地震保険の保障額の上限である200億円では、損失のすべてをカバーできない可能性がある（吉田憲一郎副社長

兼CEO）。

同工場の低層階に位置するウエハー工程を設置したクリーンルームおよび生産装置については大きな損傷がないことが確認されたため、生産再開のための準備を開始した。5月末をめどに稼働開始する見込み。

同工場の高層階で行われていた組み立てや測定などの後工程およびカメラモジュールなどの工程に関しては、クリーンルームおよび生産装置などの損傷が認められており、検証を進めている。完成品の在庫については損傷は限定的であり、すでに出荷を開始している。

地震による連結業績への影響については引き続き精査中だが、デバイス分野において同工場の直接的な物的損害や、復旧費用、補強工事費用などが生じる見込み。それ加えて、生産停止が一定期間継続することにより、主にデバイス分野およびイメージング・プロダクト&ソリューション分野において、多額の機会損失が生じる可能性がある。

パナソニックの生産子会社であるパナソニックプレシジョンデバイス（熊本県和泉町）は、生産を再開した。地震により天井が落ちたり、クリーンルームに被害が出たりしたが、復旧した。同工場では業務用インクジェットプリンターのヘッドを生産している。